

2024年(R6年)

5月

No. 383

HITOHATSUSHIN

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとほ福祉会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

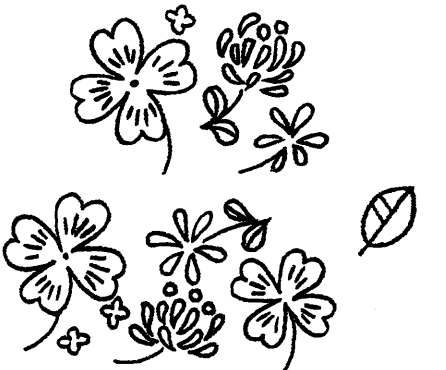
令和5年度 ひとほ福祉会後援会会計報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
会費	1,643,041	ひとほ福祉会へ寄付	600,000
390名(法人含む)		役員費(切手代(遺稿集送料含む))	696,365
冊子収入	500	事業部工賃(いきがい)	35,000
		事業部工賃(ひとほ)	35,000
利子	3	事業部工賃(あつぷ)	35,000
		印刷代他	250,436
前期繰越金	101,065	小計	1,651,801
		当期繰越金	92,808
合計	1,744,609	合計	1,744,609

担当: 岡川



あたらしい
なかまが
ふえました

本年度4月より、業務継続計画の作成が義務化されました。簡単に言うと、感染症や災害が発生しても利用者に必要な支援が継続して行えるよう、あらかじめ検討した方策を計画書としてまとめることです。新年度に備え、昨年度の資料を見直していると、初めてひとほで新型コロナウイルスのクラスターに見舞われた2022年4月の記録が出てきました。感染者の体調管理表や日に日に増える感染状況報告、保健所とのやりとり、ゾーニング表、職員の勤務表などなど、何もかも初めての対応で手が震えたのを思い出します。

その資料を見返している時、水田淳也さんに「コロナが流行った時期によく聞いた言葉は何?」と聞くと「マスクして」、そこに水附美江さんが加わり同じことを聞くと「居室に入て過ごして」「ご飯やお風呂の時間をずらして」と返ってきました。ステイホーム、黙食、3密、不要不急...と、コロナに関する言葉がいろいろ出ていきましたが、ひとほではさらに身近な声掛けをしていたなとつくづく思い返します。また距離を保ちながらの支援は出来るのか、人権侵害になっていけないか悩むこともあり、さらにはコロナ禍で入院し、お見舞いに行くことができず最期を迎えたきららも見送りました。

業務継続計画を見直す中で、4年というコロナ禍を振り返る時間となりましたが、これからの感染症や災害への対応も含めて経験を活かしていかなければと力が入ります。

(共同ホームひとほ・ひとほ作業所 井上美恵)

後援会員より

「ひとほ」の通信は、やさしいですね。(ほ、としますね。3月号の常会の話もいいし、竹内宏美さんの「増長さん」の話もいいし、出田さんの話もいいです。何より、大番さんの「わからん」と言ったA君への見え方がいいです。

大番有記さんの「相談すること」、勝手に私の仲間には添付メールで流していいね。いつも学ばせてもらっています。ありがとうございます。いつか、文尚さんの墓参りに行かせてください。もう少し時間ください。あと2年、3年、その方が「ひとほ」も見えるでしょうから。(北海道 後援会員)

きらら
名前 辰川 智史
所属 ひとほ農園
大好きな人 丸岡さん (毎の世話をしてくれるから)

スグッ
名前 木本 竜良
所属 ひとほ窯
食べてみたい朝ごはんは? 自分で焙煎、ミル挽きしたコーシーを庭木を眺めながら頂くたいです

スグッ
名前 大下 晶
所属 共同ホームひとほ
食べてみたい朝ごはんは? 「豪華なパンケーキ」です

スグッ
名前 富永 美香
所属 就労セター-あつぷ
食べてみたい朝ごはんは? 築地本願寺カフェ 18品の朝ご飯

「オーイ、オーイ」

働き始めて間もないある日、ショートで来ていた中尾さんが「オーイ、オーイ」と言って

ひ ぼくの手に取ってトイレに行く素振りをしたのでついて行った時のことです。手袋を探していたぼくを見て、中尾さんが「オーイ、オーイ」と笑顔で指をさし、教えてくれました。とてもうれしかったことを覚えています。今では、ホームのきららを作業所まで送って行った時、中尾さんの「オーイ、オーイ」という声を聴くと、笑顔になります。
(共同ホームひとは 六ヶ所 哲郎)

「桜餅」

いつもなら、1番にデザートを食べられる石田さん。今日のデザートは桜餅!

は 食べられることはなく、袋の封を切られ、そのまま机の上に...
それを見ていた西崎さん。もしかしたら貰えるかもしれないと、チラチラと私を見ながら期待をしている様子。
すると、察した石田さんが袋から桜餅を取り出し、西崎さんに「ホイ!」と投げられ西崎さんがキャッチ! おいしそうに桜餅を食べられる西崎さん。
の 思わず「ナイスキャッチ!」と言ってしまった瞬間だった。
(就労センターあぶ 實藤 美香)

「気持ちの伝え方」

日 5年生の前田圭汰くんは、外に出て走った時、イスや座布団を並べたりすることが大好きな人です。一緒に散歩をするようにお願い、くらむぼんに来るとすぐ私のことを探して走ってきてくれるようになりました。言葉での理解が難しい圭汰くんは、私がくらむぼんからいなくなるとをどのようにならせたか... と思っていました。お別れ会の時は、私の膝の上に座り、別れを惜んでいるようで、帰る時はいつもの倍のハグまで!! 圭汰くんの気持ちを伝えてくれたようで嬉しかったです。
(共同ホームひとは 中井 美咲)

「来た道を戻る」ということができず、散歩に出かけることが難しい状態だった圭汰くんが、中井さんとの散歩の中で自分で歩いてくらむぼんまで戻ってくるようになってくれたこと、圭汰くんを信じて散歩に付き合ってくれた根拠もですが、何より子どもと気持ちを通じ合わせ、力を引き出す関わり方を自然にできる中井さんの力はとても大きいと思います。
(くらむぼん 白井 けいこ)

—ひとは40周年を前に—

ひとはには、グランドピアノがあります。ピアノが来た時はスタッフが弾き、その側で外輪さんがニコニコしながら音色を楽しんだり、奥田さんが独創的な音を奏でたり、外部からの人を招いてコンサートをしたりと皆で楽しみました。

さてそのピアノにまつわる大事なことがあります。スタッフのほとんどは知りません。ひとはのピアノは原爆を体験した被爆ピアノで、修復され生き還ってやってきたことです。

このピアノを通じて1つの行事が始まりました

ジャズピアニストの河野康弘さんがいつも弾いてくださっており、「ピアノを囲んでまつりを行おう」と始めたのが「ワッハッハまつり」。東京から来たジャズバンドと共に、ピアノから流れる「三三七拍子」のリズムに合わせて「ワッハッハ ワッハッハ」と皆を巻き込んで笑顔にさせながら列を練り歩く。あのパワーは今では味わえないものです。「ワッハッハ」だけで3~400人が参加するんですから!! 被爆ピアノもたらす音色から、1人の笑顔そして何百人の笑顔。今でもみんな「ワッハッハ」と楽しんでいますね。
(益田 博之)

「今のブームは?」

活動終わりに外遊びをしていた子どもたち。そこへ閉園した幼稚園から譲渡してもらった備品たちがくらむぼんに到着。そこには長年使われていたであろうキックスクーターがあり、それを見た子どもたちは目がキラキラに! A君は「僕明日来たいです。やっぱり毎日利用したいです」とまで。汗びしょりにたよりながら夢中になって遊んでいる姿に、しばらくのブームはキックスクーターか? と思いつつ様子を見守った。
(くらむぼん 埴西 花)

「ひとは誕生前のこと」

中尾 順子

31才の秋、私は乳がんの宣告を受け、即入院・手術を経て勤めていた製品の保管庫に辞めた。
4才の娘の指しゃぶりが治り、母を傷つけた主治医を「たにち(子)ちきってやめ」と。下の息子はおもちゃの剣をぶりまわした。向原での生活は中つらりと遠ざかった。文向さんの中には40才過ぎたら「生きなくなる」が、あつたように、数年後「ひとは」が誕生するなんて誰れも思っていなかった。